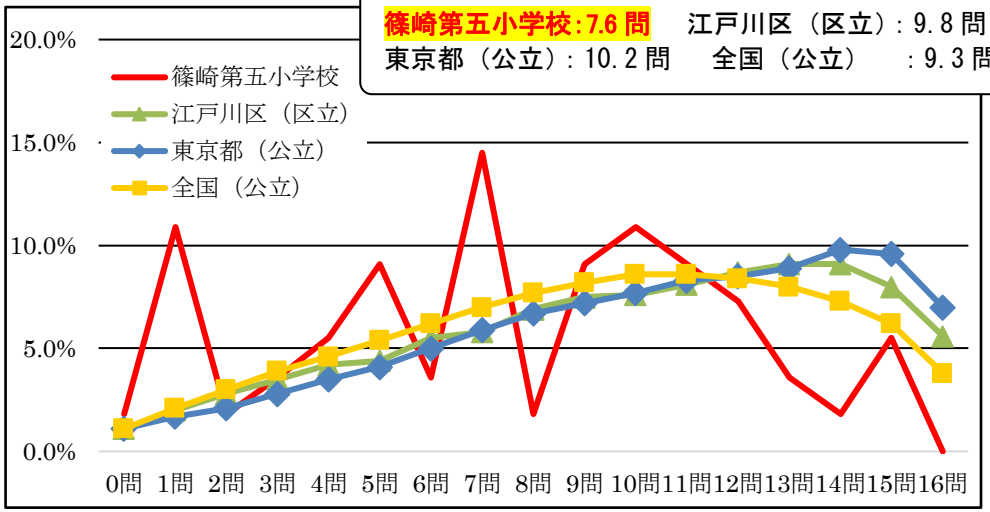
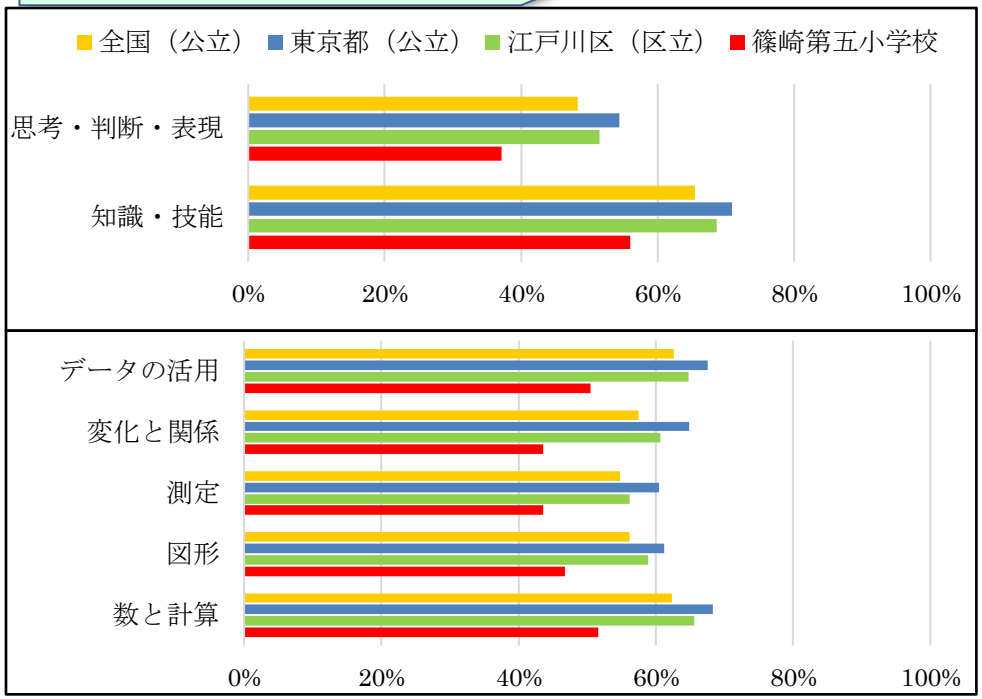
令和７年度　全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】篠崎第五小学校

正　答　数　分　布

平均正答数
篠崎第五小学校：7.6 問　江戸川区（区立）：9.8 問
東京都（公立）：10.2 問　全国（公立）　：9.3 問



「領域別」の結果



＜四分位における割合（都全体の四分位による）＞

上位 ←→ 下位

算　数	A層	B層	C層	D層
	14～16問	11～13問	7～10問	0～6問
篠崎第五小学校	7.3%	20.0%	36.3%	36.3%
江戸川区（区立）	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都（公立）	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国（公立）	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

【平均正答率の差】

篠崎第五小学校	48%
江戸川区（区立）	61%
東京都（公立）	64%
全国（公立）	58%
都との差	-16 ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

都との差が－16 ポイントであった。C・D 層の引き上げが大きな課題である。児童の苦手意識を減らしていくために、学習タイムにデジタルドリルを用いて前年度までの学習内容を復習する機会を毎週設けるなどして、確実に基礎基本の定着を図っていく。データの読み取りや分数の計算の仕組みに関する問題に誤答が多い。その理由の一つとして、問題文で問われていることを理解していないことが考えられる。そのため、どの学年でも、授業内で文章問題に取り組む際には、「聞かれていること」や「分かっていること」を全体で確認する。また、「もとにする数」など、算数で扱う言葉の意味を理解していないことも理由の一つとして考えられるため、既習内容を復習しながら、授業を行っていく。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の 1/4、2/4、3/4 にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。